

「エネルギー・原発問題」委員会開催

第8回「エネルギー・原発問題」委員会

2022年10月17日(月)14:00～16:00 会場&オンライン開催

第8回「エネルギー・原発問題」委員会を開催し、今年度の活動進捗および今後の活動計画について報告・議論を行いました。

今後は①ウェブマガジン「greenz.jp」でのエネルギー問題を多角的視点から捉えて自分事化するための連載を引き続き継続していくこと、②再エネ・原発の現地現物調査・情報共有を進めていくこと、③原発についてのファクトを積み重ね、問題ファクト集を更新していくことを確認いたしました。

また、京都大学大学院経済学研究科 安田陽特任教授をお招きし、「エネルギー転換と科学的根拠に基づく意思決定」をテーマにご講演をいただきました。電力需給ひっ迫の原因や再エネの拡大時に指摘される懸念点について、個人の思い込みではなく科学的かつファクトベースで捉えることが重要だご指摘いただきました。



▲村田座長



▲谷茂岡共同座長

+ よくある誤解とファクトチェック

- 「電力自由化で火力に投資が進まなかったから…」
- 「原発を再稼働していれば…」
 - ☞ そもそも東京エリアは原子力が稼働しなくても冬季ピーク需要(1/6)を満たしていた。
 - ☞ 3/22の最大需要は冬季ピークよりも約5GW低い。
 - ☞ 3月は毎年繁忙期後の定期点検時期で発電所の停止も増える(原発があったとしても停止火力は増える)。
 - ☞ 電源の運用の問題であり建設/投資の問題ではない。
- 「連系線の容量がもっとあれば…」
 - ☞ 今回、東北=東京間の連系線は地震により2.3GW(=230万kW)分運用容量が低下した。(連系線の容量を増強しても地震で被害を受ける可能性)
- 「太陽が照らなかったせい…」
 - ☞ 供給力の見通しは、もともと太陽が照らず太陽光の出力が非常に低い場合を想定している。
- 科学的方法論に基づかない「ナラティブ(物語)」に要注意

▲安田教授講演資料より

委員会後半では、「エネルギー危機下において、企業や消費者・自治体が出来る事、取り組んでいる事について」をテーマに会員間で議論を行いました。今後はエネルギーの課題に関して、政策提言や意見表明に加えて、会員内でできることについても深掘をしていきたいと思っております。

【出席者のご意見(一部抜粋)】

- 店舗の照明をLED化した。空調についてはお客様の快適性と節電の両立に取り組んでいる。またAIを使った空調システムの研究を進めている。
- 照明を消す・設備の温度設定を行っており、お客様に迷惑をかけない範囲で省エネを推進している。今後は断熱に取り組んでいきたい。
- 空調を10年毎に最新の設備に交換しており、エネルギー効率が3割強改善できている。また、空調等の節電に取り組んでいる。

—— 決議事項 ——

当初年度計画に沿って引き続き、「国民へ向けた情報発信と直接交流の場の創設に向けた活動」と「ファクト収集及び情報発信」を中心に活動を進める。